

## 【小中連携・合同授業】

中学校第1学年選択・小学校第6学年 英語科・英語活動学習指導案

指導者 中学校教師  
小学校教師1  
小学校教師2

- 1 題材 「英語の寸劇をやってみよう」  
教材 「イソップ物語」

### 2 指導観

- 昨今国際化がますます進み、小中学生も情報通信機器などからの洋楽の歌をはじめ、英語に身近にふれる機会が増えている。しかしながら、依然として日常生活において英語を使う機会は少なく、英語で表現したりコミュニケーションをとったりする環境には十分恵まれているとはいえない。そこで本題材では寸劇を取り上げ、グループで一人一人が役を演じながら英語で表現することによって、コミュニケーションへの興味・関心を高めるとともに豊かな表現力を身に付けさせたい。

本教材は動物が登場する例え話の中に人間の賢さ愚かさを風刺した世界的な名作で、現代においても非常に興味深い内容となっている。また、小学生にもなじみ深く、話の筋を知っているものであるため、英語での表現にも無理なく取り組めると考える。台本としては、中学生の学力で読める程度の英文で編集され、くわしい脚注や辞書等を利用しながら読みすすめていけるようなものを準備した。そのため中学生が、自分たちの力で英語が理解できるという達成感を持たせることもでき、大変意義深い。

- 中学校の本選択授業の生徒は32名（男子9名、女子23名）である。英語に関する興味・関心は高いが、中には苦手ながら選択した生徒もあり、授業の活動内容によっては支援を要する場合もある。小学校で英語活動を経験した生徒も多く、英語の歌や劇などの活動にも意欲的に取り組む雰囲気である。
- 小学校の本学級は6年生で37名（男子20名、女子17名）である。毎時間終わるのを惜しむ声が出るほど、英語活動に意欲的に取り組んでいる。英語に苦手意識がある児童も、活動後には「楽しかった、もっとしたい。」という感想を書いている。
- 指導にあたっては、グループ学習を中心に小中学生が協力して劇をつくりあげる充実感をもつことができるようにする。まず、イソップ物語の内容を把握させ、次に内容に適切な感嘆を表す言葉やジェスチャーなどを工夫して加え、表現をより豊かなものにさせていく。その際、適切なスピード、音量、イントネーションなどに気を配り、感情を込めた台詞を言えるように指導する。さらに学習全体を通して、ALTとコミュニケーションをとりながらアドバイスを受け、よりよい劇ができるための活動を深めさせる。最後に劇の発表会を通して、主体的に英語を使うことの楽しさを実感させたい。

### 3 小中連携の視点から

本学習では、小学生と中学生の混合グループで寸劇の発表会を行い、発表に至るまでに親睦を深めるための交流会や合同練習会など、数回にわたって合同授業を行う。中学生は、小学生にわかりやすく教える工夫などをすることで自信がつき、さらに英語への意欲が高まっていくと考える。小学生は、中学生や中学校の教師を身近に感じながら英語を使う楽しさを味わい、中学校での学習に対する不安をぬぐうとともに期待感を高めることができると考える。

小学生は次のような学習を進めてきた。

< 小学校の支援計画 > (5 時間)

配時	第1時(学校裁量)	第2時	第3時	第4時	本時
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生と自己紹介を行い、劇の配役を決める。</li> <li>活動計画を知る。</li> <li>劇の内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇の内容を確認する。</li> <li>自分の台詞を練習する。</li> <li>A L T と台詞を練習したり、付け加えたい台詞を考えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生と合同練習をする。</li> <li>考えてきた台詞などを合わせたり、話し合ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会に向けてのリハーサルを行う。</li> <li>互いのよさや取り入れたいことなどを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会をする。</li> <li>各グループの劇を評価しあう。</li> </ul>

4 目標

- それぞれの役になりきって、ジェスチャーなどを付け加え演じようとする。〔関〕
- 適切なスピード、音量、イントネーションで台詞を表現することができる。〔表〕
- 物語の内容を理解して、台詞のもつ気持ちなどを理解することができる。〔理〕
- 教材中の慣用句など理解することができる。〔言〕

5 題材の指導計画 (10 時間)

配時	学習活動・内容	留意点	観点：評価規準 < 評価の方法 >
2	1 イソップ物語の話の筋を確認する。 ・イソップ物語の話の筋について、日本語で話し合う。 ・イソップ物語の教材を読んで、内容を理解する。 ・教材の脚注や辞書を参考にしたり、A L T のアドバイスを受けたたりするなどして、内容の要点をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材には未習の言語材料が多いので、班ごとに学習させ、A L T と机間指導をする。</li> <li>細かい訳にとらわれず、おおまかに要点を理解するよう助言する。</li> </ul>	理：内容を的確に理解している。< プリント分析 >
1	2 小学生と合同授業を受ける。 ・互いに自己紹介をする。 ・ゲームを通して、交流を深める。 ・劇の役割分担をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中学生の緊張をほぐすように班ごとの活動をさせる。</li> <li>ゲームで、小・中学生が協力し合える関係づくりができるようにする。</li> </ul>	関：英語のゲームに積極的に取り組んでいる。 < 発言チェック >
3	3 寸劇の練習をする。 ・音読をする。 ・感嘆を表す言葉やジェスチャーなどを付け加え、台本を完成させる。 ・各役になりきって表現する練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>模範のCDを聞かせたり、A L T とともにアドバイスをしたりする。</li> <li>台詞に感情がこもるように指導する。</li> </ul>	表：正しく音読している。< 発言チェック > 理：セリフのもつ気持ちを理解してジェスチャー等を付け加えることができている。< 台本チェック >
2	4 小学生と合同練習をする。 ・それぞれが練習してきたことを合わせていく。 ・発表会にむけてのリハーサルをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生もリラックスして練習できるようにグループごとに分かれ、中学生が中心となって練習をすすめる。</li> </ul>	関：適切に表現して演じようとしている。 < 発言チェック >
本時 (9 / 10)	5 劇の発表会をする。 ・各グループの劇を評価しあう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生に司会進行役をさせ、主体的に会が進めていけるようにする。</li> <li>拍手や英語でのコメントを取り入れさせ、雰囲気盛り上がるように支援する。</li> </ul>	関：適切に表現して演じようとしている。 < 発言チェック・評価プリント分析 >
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇の評価表を元に、反省会をする。</li> <li>発表会の感想を書く。</li> <li>教材に出てきた慣用句などについて理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いを誉めあい、自信を持たせるような反省会にする。</li> <li>教材で用いられた慣用句などについて復習し、意味を理解させる。</li> </ul>	言：脚注の慣用句などの意味を理解している。 < プリント分析 >

(1) 本時の指導観

前時までには寸劇の発表会にむけて練習を重ね、合同練習にも取り組んできた。発表会に向けて、モチベーションが高まり積極的に練習を行った。本時では、これまで練習してきた成果を発表することで、自信を持たせこれからの表現活動に生かせるような場にしたい。そのためにはまず、失敗しても温かくむかえられるような雰囲気づくりをする。今までの交流から小中学生の協力的な関係ができていたので、中学生が中心となって小学生に助言したり、支援したりという場面を生かす。次に、発表会全体が英語の表現の場になるようにする。寸劇の発表だけでなく、見る側も簡単な英語を用いて誉め合うようにする。また、中学生には司会進行をすることで、より一層自信を高めさせる。小学生には、発表会を通して、さらに中学校での英語学習に対する期待感を持つことができると考える。最後には評価し合い、達成感を持たせたい。

(2) 主眼 [中] 適切な英語を用いて、各役割を演じようとする。

[小] 中学生と協力しながら、英語劇を楽しもうとする。

(3) 準備 ①台本 ②CDプレーヤー ③小道具 ④評価プリント

(4) 過程

学習活動・内容	○手立てや留意点 ◆〔観点〕評価<評価方法>
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">発表会を成功させよう</div> <p>[前時までの確認] ・各グループの劇の終了時には、拍手とともに英語を用いた発言をする。</p> <p>2 英語の歌を歌う。 ・Please Mr. Postman</p> <p>3 劇の発表会をする。</p> <p>(1) 6つのグループが順番に発表する。 ・自分のグループが発表しない時には、発表しているグループの評価をプリントに記入する。</p> <p>(2) 先生からのコメントを聞く。</p> <p>4 本時のまとめをする。 ・評価プリントの記入(発表会全体を通しての感想や自己評価など)</p>	<p>○発表会を開くにあたっての注意を確認しながら、めあての提示をする。</p> <p>○中学生が小学生に助言したり、失敗した場合などには支援するよう指示する。</p> <p>&lt;予想される場面&gt; ①台詞を忘れた場合に、具体的に誰が誰にどのように教えるのかなどを確認する。 ②発表前の最終打ち合わせを中学生がリードして行う。</p> <p>○寸劇に取り組む前のウォーミングアップとして、CDのカラオケに合わせて楽しく歌わせ児童生徒の緊張を和らげる。</p> <p>○司会進行を中学生が行うので、司会者に対して他の中学生も協力するように促す。</p> <p>○事前につまずきのある生徒には、台本を読み返すよう促したり、補足説明を加えたりしておく。</p> <p>◆〔関〕適切な英語を用いて役割を演じようとしている。 &lt;活動様相・発言チェック、評価プリント分析&gt;</p> <p>○具体的に工夫していた点について、それぞれの教師がコメントする。</p> <p>○本時の活動を振り返り、評価プリントの中の自己評価表を記入するよう指示する。</p> <p>○次時に感想の発表や反省会を行うことを予告する。</p>